３７回生学年通信【第７号】　2020.4.23

学年主任より

学年通信【第６号】で数学の学習法についてアドバイスをいただきました。自分が高校生のときにこのようなアドバイスをしてくれれば、数学で苦しむこともなかったのかなと学生時代を思い出しました。

自分が高校生のときの数学のテストの問題は、「全部で４問。しかも全部記述問題。」だった気がします。もちろん、問題集と同じ問題は出題されませんし、しっかりと理解していなければ手も出ない問題ばかりでした。同じ問題が出題されないのなら、いっそのこと勉強せずにテスト受けても一緒じゃない？とチャレンジしましたが玉砕しました。

自分は理解力が高いほうではなかったので、復習に力を注ぐ方法で勉強しました。どのように勉強していたか参考までに載せておきます。

例えば、一週間で２０題の問題を完璧にしたいとします。
１日５題演習＋前日までに間違えた問題の復習を繰り返します。ただし、ルールとして

・間違えた問題は解説をしっかり読むが写さない。
・2 回目の復習で問題が解けなければ、解説を読んでもしっかりと理解できていないと諦め、他人（友達・先生）の力を利用する。

月曜日　第 1 問～第 5 問の演習
火曜日　第 6 問～第 10 問の演習＋第 1 問～第 5 問の間違えた問題の復習
水曜日　第 11 問～第 15 問の演習＋第 1 問～第 10 問の間違えた問題の復習
木曜日　第 16 問～第 20 問の演習＋第 6 問～第 15 問の間違えた問題の復習
金曜日　第 11 問～第 20 問の間違えた問題の復習
土曜日　第 15 問～第 20 問も間違えた問題の演習
日曜日　第 1 問～第 20 問で間違えた問題の演習　**→それでも間違えた問題は赤で！**

こんな感じで勉強していたらいつの間にか数学の先生になっていました。

国語（現代文）の勉強法について（国語科）

評論編（昨年、岩佐が授業で話したことですが、実行できなかった人はやってみよう！）

１文章は疑問点を見つけながら読むことが大切。波線を引き？つけよう。(意味調べは当然やる)
２題名は、評論ではテーマの「要約」（小説ではテーマの「象徴」）だと思って、本文を読み進める時、常に頭のスミに引っ掛けておこう。（本文に題名が出てきたらそこを注意して読もう！）
３形式段落に番号を振って、意識して読もう。形式段落を作るのは、そこにひとまとまりの言いたいことがあるから。どの一文が最も言いたいことか見つけ傍線を引こう。（２文のこともあるけど・・・）一文で一形式段落にしているのは、その一文を強調したいから。
４特に、第１～２段落は注意深く読む。筆者がこれから展開していく主張や問題提起がされているので頭に入れて読んでいく。（随想などは読者がとっつきやすいような前フリのことも）
５評論は、極端に言えば、「まとめ→例→まとめ」の繰り返しであることが多い。具体的な話だと思ったら、その前後に必ずまとめ（主張）があるので傍線を引こう。具体例は（　）でくくってもいい。一段落まるごと例えの場合、前後の段落にまとめがある。
６「外国人の哲学者が、ああ言っている。こう言っている」という文章が出てくることがあるが、それは筆者の主張を権威づけていたり、うまい言い回しで表している例えの一つ。「こう言っている」ことと筆者の主張は基本的に同じだが、「私（筆者）はもっと頭いいもんね～」と付け加えや変形（工夫）があるので、筆者との微妙な違いに注意する。
７日本人は文章でも会話でも「私は～」と自分を前面に出さない。だから、本文に「私(僕)は～」と出てきたら重要な主張だ。「思うに～」で始まる文や、文末が「～思う」はまぁまぁ重要かな。文末が「～なのだ」のように強調していたら重要。
ただし、「私たちは～」のように読者を含めた複数形の言い方は、一般論を述べているだけで、その後ろにくる主張の前提である場合が多い。
８「大切なのは～」とか「～が重要である」と言っているところは、当然、重要である。いろいろな強調表現に敏感になろう。
９「～か。」と読者に問いかけることで強調している。「～である」と言っているのと同じ。もし反語なら、すぐにそのあと否定するからわかるはず。
10 接続詞を〇で囲もう。「しかし（逆説）」のあとは特に大事。その後に筆者の本音がくる。
「つまり」の前後はイコール。同じ内容の言い換えである。「したがって」の後は結論。
11「これ」「それ」「そのこと」のような指示代名詞は、そのつど何を指すか見つけて＝で結ぶか、簡単な単語なら横にメモしよう。指示語でなくても、評論は言い換えのオンパレードである。同じ内容だと思ったら、語句や文を＝で結ぼう。また、因果関係がはっきりしていたら、→で結ぼう。
12「」つきの語は強調の場合が多いが、逆の意味で使われていることもあるので注意！（世間でそう言っているが、筆者は批判的に使っている時など。「落ちこぼれ」＝落ちこぼされた生徒）
13 傍線と重なってもいいので、キーワードだと思ったら□で囲もう。熟語やまとまりのいい語句、何度も出てきたり、主張をあらわすのに重要な語句。記述の答にはキーワードを使おう。
14 わけのわからん外来語（哲学などの業界用語）は、日本語の言い換えを探すこと。
15 筆者の主張と相反する内容は、←→で結ぼう。対比して例えがたくさん出てきたら、a1←→b1、a2←→b2、a3←→b3 のように記号や番号を語句や文の横にメモして分類しよう。
16 ラスト２段落は結論が書いてあるので注意深く読む。題名の意味を考えてみる。16 傍線やメモした〇□などを目印に全体をざっと読んで、本文の構成を考え要約を書くと力がつく。